

平成 17 年度油ヶ淵生物モニタリング調査 底生生物調査

- ・ 調査時期：5 月，8 月，11 月，(平成 18 年) 1 月 (計 4 回)
- ・ 調査地点：湖内 6 地点 (B1～B6) 図 3 参照
- ・ 結果

湖内で確認された底生生物の種類数、個体数を図 1 に示す。種類数、個体数ともに、季節ごと、調査地点ごとに変動している。採集された底生生物は、泥の比率が高く比較的汚濁の進行した底質に多く出現する、イトミミズの仲間、ゴカイの仲間、ユスリカの仲間の個体数が多い。一般的に、底生生物は移動能力が乏しいため、周りの環境に適応したものだけがそこに生息できることから、底生生物の分布状況からその環境をおおよそ判断することができる。底生生物の種類数や個体数が少ない地点は、限られた生物だけが生存できるような底質状態であり、生物の生息環境としてはあまり良くない環境であることを示している。

底生生物の場合、生息に重要な要因としては、水中の溶存酸素量 (DO) が挙げられるが、油ヶ淵の底層の溶存酸素量 (DO) は、季節によっては生物が生息できないほどの濃度 (いわゆる貧酸素状態) になることがあり、このことが湖内の底生生物の生息に大きな影響を与えていると考えられる。

従って、湖内の底生生物の生息に重要な底層の溶存酸素量 (DO) を含め、今後もモニタリングを継続すると共に、生物の生息環境を確保するための底質改善などの対策を行っていくことが重要である。

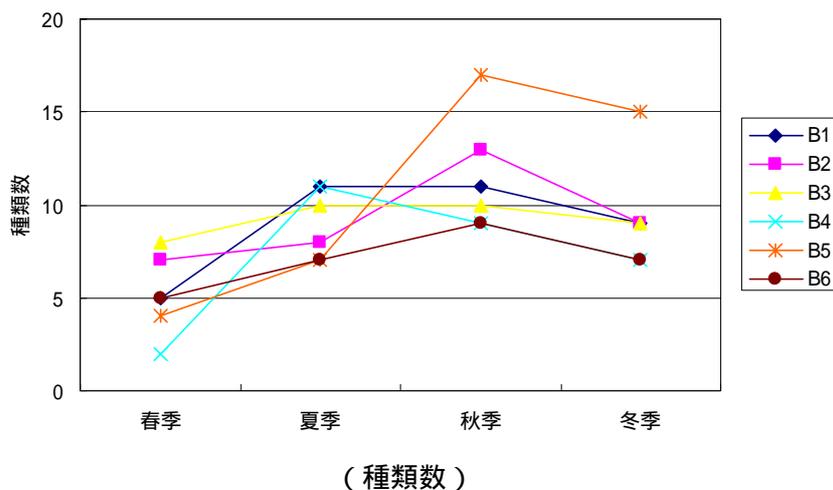
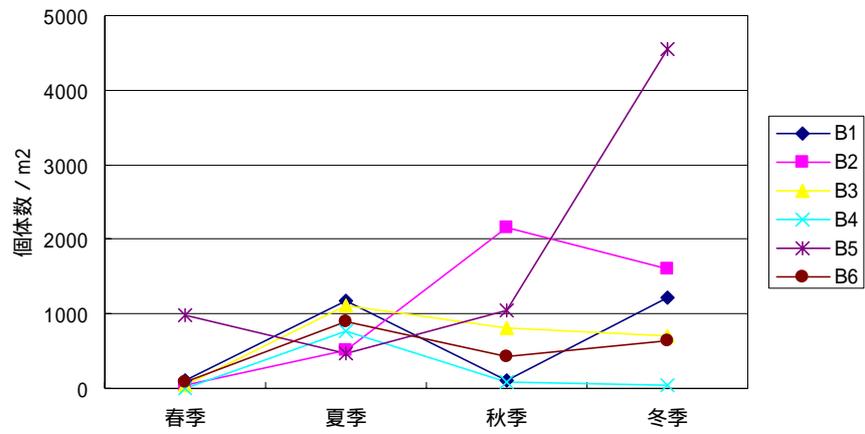


図 1 底生生物の調査地点別の出現状況



(個体数)

図1 底生生物の調査地点別の出現状況 (続き)



環形動物門 イトゴカイ科
ノトマストゥス属



環形動物門 イトミミズ科
ユリミミズ属



節足動物門 ユスリカ科
カユスリカ属

図2 油ヶ淵における主な底生生物

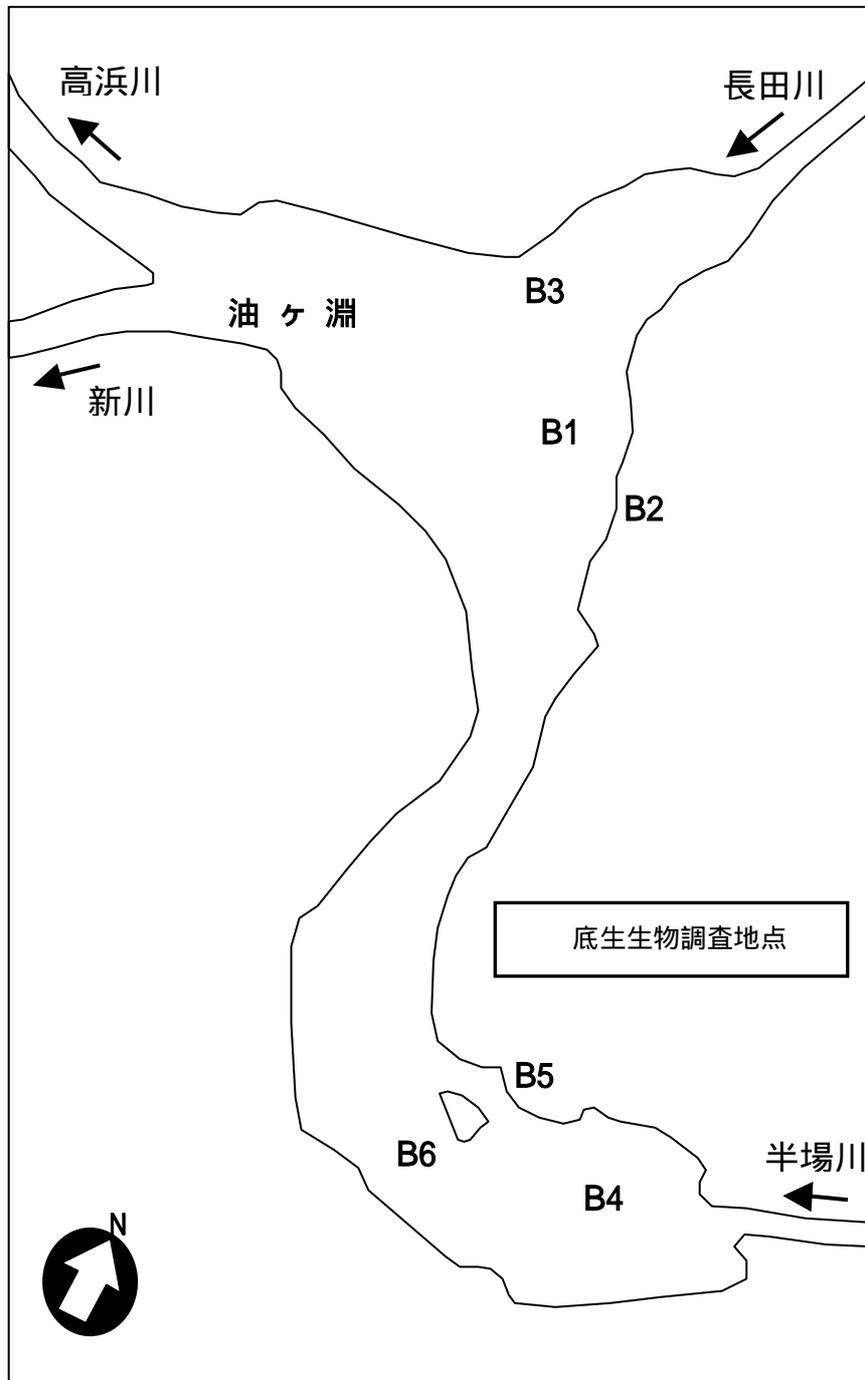


図 3 底生生物モニタリング位置